

あるある研修 「どうしたら仲良くできるかな？」

■ 主な内容

- ・ 年長になりいろいろな事に自信がついてくる頃。
- ・ なんでも思い通りにしたく、友達を誘って遊ぶときにも、強い口調で話をする姿が見られる。
- ・ 思い通りにならないとネガティブな発言をしたり、大きな声を出してイライラしている様子を見せたり、意地悪を言うてしまうことがある。
- ・ 気分が波があり、保護者の仕事が落ち着いている時には安定している。
- ・ 家庭では、思い通りになることが多いとのこと。
- ・ 仲良しグループがあったが、周囲が成長するにつれ外れがちになってきている。

■ 幼児と保育者のようす

《Aちゃんの様子》

- ・ 進級してすぐ、仲良しグループは常に3人で行動している事が多かった。月日が経つにつれ友達関係に少しずつ変化が見られるようになる。
- ・ Aちゃんは、仲良しグループのお友達とは違うBちゃんと遊ぶ。以前から気が合わず、トラブルになることは多かった。
- ・ ある日、ホールで遊んでいる時、運動会ごっこと言いながらリレー形式で遊ぶ。自分が不利な状況になると怒り、強制させる動きをとる。一緒に遊んでいたBちゃん表情はだんだん暗くなっていく。Bちゃんの限界を感じたところで保育士が声をかけ、遊びを中断し、仲介に入る。

《保育者との関わり》

- ・ 保育士は遊びの様子を見守っていた。二人の話を聞き、解決していく。
- ・ 遊び方について確認する。その後、自分が反対の立場になったとき、どんな気持ちになるかを考えるように伝える。
- ・ Aちゃんは「同じことをされたらいやだ」と泣きながら話をする。人にされて嫌な事はしないよう約束する。
- ・ 泣いていたので、話が済んだ後、保育士のそばで落ち着くまで過ごす。
- ・ 気持ちが落ち着いてからBちゃんに謝り仲直りをする。

《その後のAちゃん》

- ・ 自分を責めたりすることがある。友達や保育士がフォローすることでAちゃんは嬉しそうにする。
- ・ 友達に対しての声掛けの仕方を自分から直して話すようになってきた。

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ 何でも思い通りにしたい子どもに対して、どのような援助をしますか？

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ ネガティブ思考の子どもがいたら、どのような声かけをしますか？

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「どうしたら仲良くできるかな？」

■ この園での取組

- 年長児なので、自分で考えてお友達と関わられるように見守りながら、必要に応じて仲介に入り解決するようにしている。
- 友達の気持ちがわかるようになるために、どうすべきだったかを一緒に考えている。
- 伝え方、話し方について、気になった事を伝える。
- 保護者と家庭や園での様子について、情報共有する。
- トラブルがあり、解決後には、しっかり感情を受け止めてあげる。その後も安心して過ごせるような関わりをする。

■ ワンポイント

- その都度、職員間で出来事を共有し、子どもの状況を把握しながら、同じ関わりが出来るようにしましょう。
- 保護者との情報交換をもとに現状を受け止めながら、接していきましょう。
- 関わり方を振り返り反省し、より良い方法がないか考え、実践を活かしていきましょう。

あるある研修 「持って帰りたいけど」

■ 主な内容

- ・ お花が咲き始めた5月下旬
- ・ 年中さんの後半からお友達の物や幼稚園の教材をとってしまう姿が見られていた
- ・ 注意されるたび少し笑いながら謝るA児
- ・ 人の物を取ることはいけないことだと担任は根気よく伝えていた。
- ・ 担任は注意するだけでなく、原因を探ろうと見守っていく。
- ・ A児は“かわいい”“ほしい”という感情から物をとってしまう様子が見られた。
- ・ 家庭環境の変化も特にみられない。
- ・ ある日みんなが園庭で遊んでいる時間に一人で廊下にいるAちゃんを見つけた担任。その手にはお花が。
- ・ 幼稚園のお約束事として、園庭のお花を摘んで家に持ち帰ることはできないことになっていたのだが。(考え方として園の共有物、教材という考え。加工して遊びに使用するのであればOK)

■ 幼児と保育者のようす

- (廊下にいたA児を見つけて…)
- 担任：Aちゃんどうしたの？
- (A児は担任の顔を見ると逃げようとして…)
- 担任：待って！Aちゃん！何かあったのかな？
- (A児の手には園庭で摘んできたであろうお花が。下を向いて何も言わないA児)
- 担任：そのお花きれいだね。どうしたの？園庭で摘んできたの？
- A児：うん…
- 担任：お家に持って帰りたいのかな？
- A児：うん…
- 担任：そっか…きれいなお花だしお家の人にみせたいよね！わかるよ。
- A児：うん！（顔をあげて少し元気に返事）
- 担任：Aちゃん、幼稚園のお約束覚えているかな？
- A児：うん…お花持って帰れない…
- 担任：そうだったよね。よく覚えてたね。じゃあさ、何か工夫してみない？
- A児：…（注意されるわけではないと思ったようで安心している様子）
- 担任：この前みんな、しおりやハガキにお花使っていたんだけど、Aちゃんしてみたことある？
- A児：作ったことないけど、ハガキ作ってみたい！
- 担任：いいね！それじゃ一緒に作ってみようよ！
- A児：うん！（うれしそうな様子で返事をする）

まず押し花にするところからスタートするため、数日の時間を要したが、その間A児はワクワクしている様子が見られた。完成品を持ち帰る際も満足した様子であった。それから、物をとってしまうことがなくなった。

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ A児がお花を持っていることに気が付いたとき、あなたなら
どんな対応をしますか？

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ やってはいけないことをした子どもに関わる際、大切にしてい
ることはなんですか？

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「持って帰りたいけど」

■ この園での取組

- 年中の後半からお友達の物や園の物（制作で使用したビーズなど）をとってしまうことが何度か見られ、注意することが多くなっていた。注意されることが多く、認められることが少ないことに気がつき、小さな事でも声をかけ認める言葉がけを増やした。
- 職員全体でA児の状況を共有し、様子を見ていた。
- ボーとすることが多く、全体で話を聞くことが少し苦手で、園のルールを理解しきれていない部分があるのではないかと考え、個別で話をするようにした。
- 年長に進級し1ヶ月ほどはとる行動はみられなかったが、園庭に出てお花をみたことで、欲しい気持ちが優先してしまったようだ。この頃、周りでは自然物を使用した遊びが流行していたので、A児にも持ち帰れるような工夫を提案した。
- 一人一人の思いや、発達段階、家庭環境など様々な観点から、子どもの育ちを複数の目で見ると心掛けている。
- 幼稚園のお約束ごとをもう一度クラスで確認して再認識する時間を作った。
- A児が遊び事に興味をもてるよう、一緒に遊ぶ時間を増やしたり、遊びの紹介をした。
- どのようにしたら持って帰ることができるか提案することで、本人も満足し、さらに今まで興味のなかった自然物の遊びにも目を向けられるきっかけとなった。

■ ワンポイント

- 子どもを多面的に見ることを職員全体で共有し、保育者それぞれが複数の視点から見ることを大切にしましょう。
- 進級時に新規の担任となる場合は、しっかりと引継ぎを心掛けましょう。
- 子ども達が生活する上で大切なことやルールなど守れるような工夫やアイデアを考えてみましょう。

あるある研修 「こだわりのある女の子」

■ 主な内容

- ・ 3歳児のクラスの女の子
- ・ 1歳児の時からこだわり行動やかんしゃくなどがあり、診察を受けていただき、2歳児の時から障がい児枠での登園。(加配あり)
- ・ 3歳児になり、本児のルーティンが崩れると、泣き、かんしゃくをおこす事が増えた。ルーティン、こだわりがお友達と一緒にいい、色のこだわりやおりがみをやりたかったなど、かんしゃくの内容には成長を感じるが、落ち着くまでには、少し時間がかかる。
- ・ 兄弟の体調が悪く、1週間くらい休み後の登所の朝。

■ 幼児と保育者のようす

保育者：おはよう～。あれ？Ｙちゃんのバスタオルは？
 (母は弟のバスタオルのみを袋に入れて持たせる)

Ｙ 児：バスタオルがなあ～い (泣き叫ぶ)
 (Ｙ児のバスタオルは布団にかかって園にある)

保育者：お布団にかかってあるから、大丈夫だよ

Ｙ 児：やだ、やだ、バスタオル～ (泣き叫ぶ)
 (布団を持ってきて見せる)

保育者：Ｙちゃん、あるよ～

Ｙ 児：違う～袋に～ (泣き叫ぶ)

保育者：袋に入れたら、またバスタオルしきをしないとダメだよ。
 それでもいいの？

Ｙ 児：バスタオル～袋～ (泣き叫ぶ)

保育者：Ｙちゃん泣かないで、どうしてほしいか伝えて

Ｙ 児：バスタオルを袋に入れて欲しい (泣かず言う)
 (Ｙ児の布団からバスタオルをとり、畳んで袋に入れて渡す)

Ｙ 児：ありがとう
 (落ち着いて、いつもの朝のお支度を行う)

ワークシート

■ 協議してみましよう

○ 保育士の声かけで良かったと思いますか？

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ こだわり行動で、パニックになった子に何が必要だと思いますか？

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「こだわりある女の子」

■ この園での取組

- 3歳児に進級し環境が変わった事もあり、Y児のルーティンはあまり崩さずに保育を行う。
- パニックになった時には、クールダウンさせてあげることや、泣かずに自分の思いを伝えることを職員が共有しておく。
- こだわりの時の理由が、年齢とともにはっきりとしてきている。色のこだわり、お友達と一緒にがいい、今これをやりたいなど。Y児の要求に添えない時には、怒らずに話をする。
- 少しずつ、Y児のルーティンは崩していくことができるように。通院施設との連携も進めていきたい。
- 他児と同じペースでの保育は難しい面もあるので、個人にゆっくりと関わる。

■ ワンポイント

- 加配の先生だけではなく、その子の特徴、行動のくせなど、全職員に共有していく必要がある。
- その子のペース、思いに添いながら、少しずつ成長できるように促す。

あるある研修 「試練から楽しい気持ちへ」

■ 主な内容

- ・ 3歳児クラスでの食事の様子
- ・ 認定こども園へ移行になり、お弁当から給食に変わりました。
- ・ お弁当は上手に食べることができていた子どもたち。
- ・ 給食になり…あれもこれも「嫌い」「食べられない」と言う様子が…
- ・ お弁当の時は”好きなもの“を入れてくれていて、実は好き嫌いが多かったことが発覚。
- ・ 担任は試行錯誤で給食の時間を過ごすことに…

■ 幼児と保育者のようす

A 児：先生、残していいですか？

保育者：あと一口だけ食べてみよう！きのこ食べたら、お肌つるつるになるん

だって～

A 児：（パクッと食べ、ほっぺを触る）

保育者：どう？つるつるになった？

A 児：うん！つるつるになった！（その後も食べ続けます）

A 児：先生、ぴかぴか～（なんと完食！）

保育者：すごいね！完食～♪

A 児：ママにご報告して～

保育者：わかったよ～。ママに伝えておくね。

（お迎えに来たママと一緒に喜びました！）

B 児：先生、Bは、これ嫌い

保育者：このブロッコリー、Bくんの家のブロッコリーなんだって～。ちょっと

とだけ食べてみたら？

（本当はB児の家のブロッコリーではない）

（それを聞いていたCくん）

C 児：Bくんの家のブロッコリーおいしい～

B 児：Bも食べてみる…（食べた）おいしい～～

（それ以来、B児は、ブロッコリーを克服しました）

--

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ 担任は、クラスの子どもたちに何を育てたかったのでしょうか。

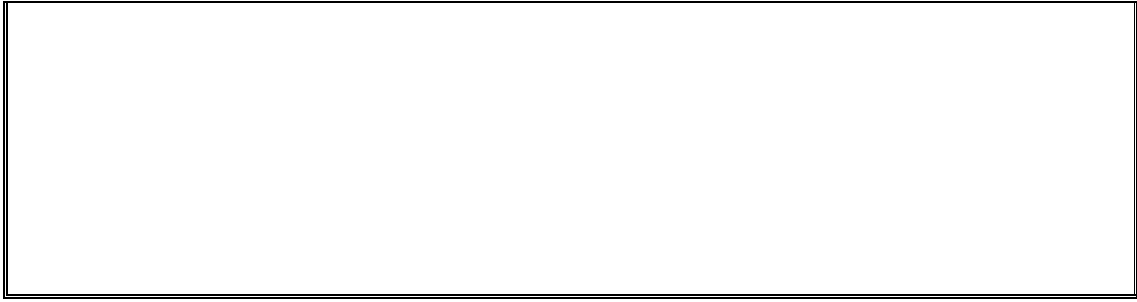
(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ “食育”で大切なことは何ですか？

(個人思考)

(グループ・全体協議)



「試練から楽しい気持ちへ」

■ この園での取組

- 食べ物の好き嫌いが多い園児にとって、給食は試練の時間であり、楽しい時間になるためには、どのように進めたら良いか工夫しながら関わっている。
- 献立一つ一つへの興味・関心につながるために、何の食材が使われているのか知らせている。
- 家では“好きな物だけを食べる”家庭も多く、食べないことが当たり前になっている園児への対応とし、家庭との連携は必要不可欠！！
- 個々の食べられる量を把握し、事前に調節することにより「全部食べられた！」経験を積み重ねていけるよう関わっている。

■ ワンポイント

- “食育”で大切なことは何か、担任の考え、調理員さんの考え、園の考えなど、整理してみましょう。
- 園児が“食”に興味・関心をもつために、どのような取り組みや工夫ができるか、考えてみましょう。

あるある研修 「黄色いミニトマト」

■ 主な内容

- ・ 2歳児クラス
- ・ 年長さんが畑で育てているミニトマトの脇芽が大きく育ち、実をつけていたので、脇芽を積んだ時にゆずってもらい、保育室内でペットボトルに挿して栽培していた。
- ・ ペットボトルの水を替えている時に、子どもたちがミニトマトの色が緑から黄色く変化してきたことに気付く。
- ・ いつもは窓際においてあるが、気になっているようだったので、子どもたちの目線の高さで見られるようにと、テーブルの上に少しの間置いておいた。
- ・ R児（衝動性があり、目についたものに飛びついてしまう。まだ、良いことと悪いことの判別が付けられず注意されたことも繰り返してしまう。発語は少なく、単語か二語文程度と、月齢にしては、ゆっくりめの発達）

■ 幼児と保育者のようす

こども：先生～トマト黄色くなっているね～ 早く食べたいね～
 保育者：そうだね～、はやくたくさん赤くなったらいいのにね～
 （トマトが気になっている様子のR児、そばに来ては黄色いトマトをツンツンして）
 R児：せんせい、トマト（と何度も嬉しそうに教えてくださいます）

保育者：優しく触らないと、トマト落ちちゃうからね～、優しくだよ～。
 （それまで見るだけで我慢していた他の子どもたちも、R児が触っているのを見て、触り始めました。）

（次第に触り方がエスカレートしていったので、何度も）

保育者：優しくだよ（と伝えていたのですが…）

（少しその場から離れたすきに…）

こども：せんせい！Rちゃんがトマト取った！！（と口々に言う子どもたち）

保育者：えーっ！本当？

（確認するとポロンと取れたトマトが机の上に一つ…）

（R児はというと、すでにその場にはいなく、他の場所で遊び始めていました。名前を出されたことで『まずい』と思い、その場から離れたのではないかと思います）

（もちろん目を離した私が悪いので、R児を責めることはなく、子どもたちも落ちたトマトを十分に触って満足したようで、その後トマトの話題になることはありませんでした。）

（ちなみに赤いトマトだと思い込んでいたので、まだ黄色いトマトは食べられる段階ではないと思っていたのですが、あとから年長さんの先生に確認すると、黄色いトマトとのことでした）

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ もし、食べられる状態のトマトだと知っていたとしたら、そのトマトが一つしかない場合、どのような対応をしますか？

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ R児や、周りの子たちへの声かけは、どのようなものが適切だったと思いますか？

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「黄色いミニトマト」

■ この園での取組

《もし、食べられる状態のトマトだと知っていたら、そのトマトが1つしかない場合、どのような対応をしますか？》

- 1つしかないのであれば食べることは難しいので、みんなで匂いをかいでみたり、触ってみたり、切って断面をみせたりする。
- R児の食べたいという思いを汲み取り、他の子の了承が得られるのであれば、R児に食べさせてあげたい（年齢的に難しい？）
- 年齢が高ければ順番なども理解でき、「今日は〇〇くんだから、次の時は〇〇ちゃんね」ということもできるかもしれないが、小さいクラスでは難しい。

《R児や、周りの子達への声かけはどのようなものが適切だったと考えますか？》

- 周りの子達には、約束を守り優しく触れていたことを認める。
- R児を責めることは周りの子達を刺激し、更に責めることに繋がる可能性があるので、食べたいと思った気持ちを共有してあげたい。

■ ワンポイント

- 正解はないことだと思うので、子ども達が納得できる方法であれば、どんな回答になっても良いと思います。いろんな方向から見て、考えていくことが出来ればと思います。
- 年齢ごとに対応の仕方は変わってくると思うので、各年齢ごとの対応を考えてみても良いと思います。

あるある研修 「友達とのかかわりが上手く出来ない」

■ 主な内容

- ・ 4歳の男の子。使いたい玩具、道具を使えないと、泣く、暴れる、暴言を吐く、たたく、噛みつくなどの行為がみられる。
- ・ 「伝える、伝わる言葉」の数が少ない。
- ・ 保育士が気持ちを受け止め相手の気持ちを知らせるが、怒りの感情を抑えることができない。その場と関係のないことを発言する。(家で保護者に言われている言葉など)
- ・ 自分から相手を挑発するような言葉を掛け、追いかけて誘うが、だんだんエスカレートしトラブルとなる。
- ・ 戦隊ものが好きで、なりきって遊ぶことが好き。
- ・ 母の前では良い子

■ 幼児と保育者のようす

園庭のブランコが大好きなA児。園庭に出てくると先にブランコに乗っているお友達があります。ブランコのところに走ってきて…

A 児：Aのブランコ！！

B 児：…

A 児：（ブランコを止め、無理やり乗っている子を降ろそうとする。）

保育士：今、Bくんが乗っているから待っていてね。次のお友だちも順番に待っているよ。

A 児：Aが乗りたいんだー！！もうやだ！！ばか！！

（すねて別のところへ行く）

（別の日一番にブランコに乗れたA児）

C 児：ブランコ貸して～！！

A 児：やだ！！

（ややしばらく乗った後、別な遊びに興味をもちブランコから離れる。ブランコに乗ったC児）

A 児：Aが乗っていたブランコー！！

保育士：Cちゃんにブランコ貸してあげられたの？えらかったね！！

A 児：ブランコ、貸さない！やだ！ばか！

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ 自分の行動がどのような結果をもたらしたのか、他者の立場から考えるようにするために、どのような援助が必要ですか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ ルールを守る友達との遊びが楽しくなるという実感をもたせるため、どのような援助が必要ですか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「友だちとの関わりが上手くできない」

■ この園での取組

- 製作など指先を使ったり、内容を理解して進めたりすることが難しい様子がみられ、保育士と一対一の関わりでできたことを褒めながら関わっている。
- トラブルになると感情を爆発させ、話に耳を傾けたりすることができないため、時間を置いてから話をする。しかし、また同じトラブルの繰り返しになっている。
- 一人遊びが多いが、友だちと機嫌良く関わっているような時は、遠くから見守っている。

■ ワンポイント

- 自分の視点からしか物事を捉えられない幼児には、他者の立場から考えるように、幼児一人一人に応じて繰り返し働き掛ける。
- より楽しく遊ぶために友達と一緒にルールを決めてみたり、ブランコと他の活動を組み合わせて遊びを広げたりするなど、一人遊びから他者との関わりに広げていく機会と捉え、必要な仲介をする。

あるある研修 「職員室」

■ 主な内容

・集団での活動や遊びに気持ちがついていかない子どもが職員室へやってきます。クラス活動や外遊び・給食時など様々な場面で、静かな空間や心を落ち着かせる時間が必要な子どもがいます。

■ 幼児と保育者のようす

A 児：（静かに職員室にやってくる）

保育者：どうしたの？

A 児：…外行きたくない、給食食べたくない などなど

保育者：うんうん。そうなんだね。

〇〇先生（担任など）にお話ししてみた？

A 児：…

保育者：少し職員室にいる？

A 児：うん

保育者：〇〇先生、Aちゃんがいなくなって
心配しているかもしれないよね

A 児：そうだね

保育者：「職員室にいます」って、一緒に言いに行こうか。

A 児：うん！（キラキラ）

■ 協議してみましょう

○ 集団での活動に気持ちが向かない子どもへの声かけや援助で大事にしていることはなんですか？

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ 職員間の情報共有は、どのように行いますか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「職員室」

■ この園での取組

- 「みんな一緒に」という保育を見直し、子どもの気持ちに寄り添い、必要としていることにあたたかく応答していく保育を目指す
- 気持ちを切り替える時間が必要な子どもや、集団での活動に気持ちが向かない子どもが、安心して一時的に過ごせる居場所を作る。
- 子どもがみんなのところや遊びに戻ることができるタイミングは一人一人違うので、個々に応じた対応を心掛ける。
- 職員室にも絵本や塗り絵などを常備しておく。

■ ワンポイント

- 子どもがどのような場面で心を落ち着かせる時間を必要としたのか振り返り、職員間で共有しておく。
- 安心して活動できる環境設定や、気持ちを切り替えるための意識的な声かけなどについて考える

あるある研修 「好き嫌いがでてきたら？」**■ 主な内容**

- ・ 途中入園のA児（2歳）
- ・ 偏食で新しい食べ物には、口をあけない。
（給食で初めて食べるものも多い）
- ・ 便をするとおむつに手を入れ触ってしまう
- ・ まだ言葉が出ずお友達のおもちゃをとったり、上にのったり
- ・ 保育士の顔をバシバシたたいたり、顔つきをしたり

■ 幼児と保育者のようす

- ・ 初日から泣かずに登園し、機嫌よく遊んでいた。
- ・ はじめ給食は全く手を付けなかったが、保育士が一口食べさせ
「おいしいね～」と声をかけるとにっこり笑うようになり、今は
手づかみで食べるようになってきた。
- ・ 一日数回便をするが、食後の時が一番気になるらしく、おむつに
手を入れ、そのままおもちゃやマットも…
- ・ たたいたり、友達の上へのしかかったりするときは、本人は、に
こにこしており、悪気なく遊びの延長のような感じである。

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ 偏食、好き嫌いが出てきた時の食べさせ方、どうしていますか？

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ お友達をたたいたり、のしかかったりした時の声掛けや対応の仕方は、どうしていますか？

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「好き嫌いがでてきたら？」

■ この園での取組

- 家では、バナナ、干しいも、うどんが好きでよく食べているが、園ではじめて食べるものが多いようなので、一口だけ食べてみるようにしている（一口食べるとおいしくておかわりして食べることもあり）
- 食後は、保育士が横につき、着替える時はズボンをすぐはかせている。
- たたく、のる、頭突きは、A児の感情表現と考えている。ケガのないよう注意し、声かけしながら少し離れて見守る。
- 最近は食べる意欲が出てきて、フォークを自分で持つようになった。カレーライスと汁物以外は「手づかみでもいいよ」と声をかけている。
- 言葉は出ないが、身振り手振りで伝えようとしてくれるようになり、日常生活が落ち着いてきたと感じている。

■ ワンポイント

- 家庭においても食習慣のほか、衣服の着脱や排泄などの生活行動がしっかり確立されるよう、家庭と連携を密にしながら、ともに園児に寄り添って指導していく。